

七大戦 部便り

目次

1. 七大戦 講評
 - 1.1 監督より
 - 1.2 主将・女子主将より
2. 七大戦 試合経過
3. 選手の言葉
4. 試合結果
5. 自己記録更新者一覧
6. 2017年度部内五傑
7. 2017年度東大記録更新者一覧
8. 主務より

1. 七大戦 講評

1.1 監督より

監督・藤田靖浩

今年度の七大戦は、男子総合は大変残念ながら34.5点で9年振りの6位。一方、女子は16点で12年振りに3位と盛り上がりました。

男子は、棒高跳の三宅、5000mの近藤は危なげなく優勝、下級生を中心にベストを更新したり関東インカレの標準を突破した選手もそれなりにいたりしたものの、地力不足に加え、7位8位の選手が多く、取りこぼしも目立ちました。

女子は坪浦の400m、高石の800m、3000mの二冠(800mは今年二度目の2分11秒台で大会新)、内山の走幅跳での優勝、東大新を中心に専門種目以外でも着実に結果を残しました。

男子の総合成績は近年でワーストとなってしまいましたが、この悔しさを各自胸に刻んで練習に励み、秋の京大戦では必ず勝利できるように頑張ってください。

1.2 主将・女子主将より

主将・寶田雅治

今年の七大戦は愛知で行われました。シーズン中盤最大の山場として、部員一丸となって挑んだ七大戦でしたが男子総合は6位という悔しい結果に終わりました。

エントリー時の下馬評では男子は60.5点を取って4位という立ち位置でしたが、結果は20点以上も低い34.5点での6位となり、実力においても、勝負強さにおいても足りてない現状を突きつけられました。自分たちの代になって一年間、今年は谷間の代だ、戦力ダウンは免れない、と言われ続けてなんとかそれを覆そうと必死になってこの一年間努力してきました。しかし、一年間必死に練習してきたとはいえ、陸上はやはり結果が全てです。結果を出せなかった以上はこの一年間の取り組みが甘かったのか、それとも必死になるのが遅かったのかどちらかだと思います。今年のトラックの対校戦は残す所一橋戦と京大戦だけとなりました。この一年の取り組みが意味のあるものだったと胸をはって終われるような結果を出すこと、4年生が経験した過ちを下級生にさせないように伝えるべきことを伝えていくことが主将としての最

後の役目だと考えています。

OBOGの皆様には一年間、我慢をしていただく形になり本当に申し訳ありません。残りのシーズンいい結果を出して終われるよう最大限の努力をしてみたいので今後とも今までと変わらぬご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

女子主将・坪浦諒子

総合優勝を目標に掲げて今回の七大戦に臨みましたが、優勝した東北大学と3点差で3位に終わり、非常に悔しい結果になりました。手の届きそうなところまで来ていたものの、それをものに出来なかつたつめの甘さを痛感しております。

しかし、総合3位以上になれたのは12年ぶりであり、各選手の順位は下馬評からどの種目においても落ちていないことは評価出来ると思っております。特に、3年高石や2年内山の優勝はチームを勢い付けるものとなりました。また、専門種目外でメンバーを組んだ4×100mリレーにおいても4位となり得点できたのは大健闘であったと思います。他大学に比べ女子選手が圧倒的に少ない中で、自分の果たすべき事柄に集中して女子パート全員で七大戦に挑んだことが、優勝こそ出来なかつたもののこの度の結果に繋がったと考えています。来年は今回得点した選手は勿論のこと、それ以外の選手も自分の取るべき1点に拘り悲願の総合優勝を果たしてくれると期待しています。

今シーズン、残す対校戦は一橋戦と京大戦の2つとなりました。この度見えてきた課題をそれぞれ克服し、今回の悔しさを忘れずに必ず勝利して全員が笑顔で締めくくれるように精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 七大戦 試合経過

◎トラック種目

7/30(日)

9:30 女子 100m 予選

2組4レーンに内山(2年)の出場。朝方に降っていた雨は止んだものの、湿度が高く、どんよりとした空気の中で女子対校100mの予選が行われた。予選は2組3着+2が決勝進出という条件で争われる。

号砲とともに内山はいいスタートを切る。滑らかな加速でスピードに乗り、前半は前3人が並ぶ僅差の展開。中盤は多少、前の2人に離されるものの前半に乗ったスピードのままゴール。結果は12"86(+0.3)の3着。見事着順で決勝進出を決めた。4着の選手とは0.2秒近くの差をつけた危なげのない決勝進出で決勝ではさらにタイムを上げての得点獲得を期待したい。

9:40 男子 100m 予選

対校男子100m予選は3組2着+2で行われ、1組4レーンに阿久津(2年)、2組8レーンに後藤(4年)、3組7レーンに井上(1年)が出場した。申請タイムはそれぞれ組内5番手、7番手、4番手であった。

阿久津は、力みのないスタートで勢いに乗ると持ち味の伸びのある走りで素晴らしい中間疾走をみせて、60m地点でトップに躍り出る。75m付近で3レーンの選手に抜かされたが、10"85(+0.8)のPBを叩き出して2着でゴール。見事決勝進出を決めた。

後藤は、一次加速では他の選手に引けをとらない走りを見せるも30m以降スムーズに加速する他選手に遅れをとってしまい、その差は埋まらないまま11"28(+1.1)の7着でゴール。七大戦という大舞台でPBを0"08更新したが決勝進出はならなかった。

井上は、緊張からかスタートで体が硬くなったため二次加速で本来持っているトップスピードに到達することが出来ずに決勝進出圏外の5番手になってしまう。終盤は4番手の8レーンの選手に食らいついていったが、そのまま11"02(+0.9)の5着でゴール。UBではあったが目標の10秒台には惜しくも届かず、決勝進出を逃した。

9:50 男子 1500m 決勝

妹背(4年)、近藤(3年)、渡部(2年)の出場。走路は濡れていて、じめじめした暑さの中での試合だった。資格記録では近藤が1番、妹背が3番で、高得点が期待された。

スタート後、渡部が飛び出し、近藤がそれに続いた。妹背は集団の後方につけた。2周目まで渡部が近藤を引っ張るというプランであった。1周目の通過は、渡部、近藤が6'3"、妹背が6'7"であった。2周目も渡部はペースを維持して近藤を引っ張り、2週目の通過は、近藤、渡部が2'06"、妹背が2'11"であった。ここから近藤はさらにペースを上げ、単独で先頭に立った。3周目の通過は近藤が3'08"、妹背が3'16"、渡部が3'24"であった。4周目に入り、2番手に付けていた北大の選手が徐々に追い上げ、残り200m付近で近藤を追い抜いて先頭に立った。近藤はそれに付いていけず、そのまま3'55"14の2位でゴール。妹背は少しずつ順位を上げ、4'04"21の7位でゴール。渡部は4'29"33の21位でゴールした。

結果、5点の獲得。渡部が近藤を2周引っ張るというプランはうまくいき、良い展開に持ち込めたが、それ以上に北大の選手が良い走りをした。今後は、3番手以降の選手も力をつけ、対校選手全員が入賞を狙えるようなレースがしたいところである。

10:00 女子 400m 予選

1組4レーンに坪浦(4年)の出場。雨上がりで涼しく、組トップの資格記録を持つ坪浦には快走が期待された。

前半型の選手達が飛ばす中、坪浦は落ち着いて追従し、最終カーブからは圧巻のスパートで引き離して58"68の1着でゴールした。決勝にも期待が高まる、次に繋がるレースだった。

10:10 男子 400m 予選

天候は曇り。1組2レーンに伊藤(2年)の出場。スプリント力の向上を自ら実感する中で、自己ベストの大幅更新を目指してのレースであった。

序盤から隣のレーンの選手に離されつつも自分のペースを守っていたが、最後まで粘りきれず、51"71の6着でゴール。自己ベスト更新はならず、課題の残るレースとなったが、まだ2年生である伊藤には、今後の大いなる成長が期待される。

2組2レーンに加藤(3年)の出場。初の七大戦出場であり、自己ベストの更新を目指してのレースであった。

序盤から積極的なレースを行い、外側の4レーンの選手を追い抜く程のペースであったが、カーブを走り終え300mを通過する頃には走りが乱れ始めてしまった。減速を抑えられず、4レーンの選手にも抜かされ、51"98の6着でゴール。他大学の選手とのレベルの差を見せつけられるレースとなった。今後の成長が期待される。

3組4レーンに小嶋(3年)の出場。小嶋は7月1日の四大戦において自己ベスト更新を果たしており(49"92)、さらなる自己ベストの更新及び決勝進出を期待されてのレースであった。

スタートのやり直しがあったものの、落ち着いてスタートを切り、いつも通り前半から積極的なレースを展開した。必死に食らいつくも最後の直線で2着の選手に差を広げられてしまい、50"02の3着でゴール。タイム順でも決勝進出はならなかった。今後のパフォーマンスの向上が期待される。

10:30 男子 400mH 予選

1組2レーンに今井(4年)、2組2レーンに松田(2年)、3組2レーンに竇田(4年)が出場した。資格記録では3選手とも組で6番手であり厳しい戦いが予想されたが、大幅自己ベストによる決勝進出、得点獲得が期待されていた。試合当日は比較的気温は低いものの湿度が高く蒸し暑かった。

1組は名大の選手が先行する展開になる。今井も内側から追いかける。3台目まではインターバル15歩で順調にハードルを越えていったが4台目の前で少し歩数を刻んだ。そのまま前の選手との差を埋めることはできず、6着でゴール。タイムは1'01"21のPBであった。

2組も名大の選手が先行。松田は前半から積極的にレースを展開した。300m地点まで4レーンの京大の選手と競る展開だったが、最後少し失速して差をつけられ、5着でゴールした。タイムはUBに近い56"92であった。

3組に登場した竇田は前半から積極的に飛ばし、バックストレートで既に1つ外側の阪大の選手を捉えた。7台目まで15歩で軽快にインターバルを刻んでいたが、8台目で足を合わせられず、ハードルの前で止まってし

まう。勢いを付け直し最後まで走りきったが失格となつてしまった。

1人も決勝に進出できず、悔しい結果に終わってしまった。今後の対校戦でのリベンジに期待したい。

10:50 女子 800m 決勝

2レーンに荒木(3年)、5レーンに高石(3年)の出場。高石は一週間前の試合で自己記録でもある東大記録を更新し好調であり、資格記録でも1番。荒木も入賞は難しいが調子は上がってきており、良い走りをするのが期待された。

スタート後、高石は順調に加速し、荒木は少し抑えめに入った。ブレイク時点で高石は3番手。荒木は集団から少し離されて10番手であった。200mの通過は高石が31"5、荒木が34"4であった。200m通過とともに高石は順位を1つ上げて2番手につけた。そのまま400mまでレースが進み、400mの通過は高石が64"0、荒木が73"2であった。2周目に入り各選手が上位をうかがう中4人の先頭集団が形成されたが、バックストレートで高石がスパートに入り、そのまま後続を引き離して2'11"89の1位でゴール。荒木も最後に1つ順位を上げ、2'32"84の9位でゴール。

高石の記録は大会記録を2秒近く更新する好記録であり、3位までが昨年までの大会記録を上回るレベルの高いレースであった。荒木もシーズンベストであった。高石の今後の活躍に期待することはもちろん、荒木もさらに調子を上げて活躍することを期待したい。

11:00 男子 800m 予選

1組5レーンに伊藤(3年)、2組4レーンに小野(2年)、3組2レーンに早川(4年)の出場。27℃ほどの低い気温ながら、湿度が非常に高く蒸し暑かった。

伊藤は坂口(3年)の体調不良のため急遽出走が決まった。組のペースが上がらない中、ブレイクから積極的に前に出て、先頭で200mを通過。しかし、その後400mまでに一気に抜かれブロックされてしまい、うまく前に出られない。400mは59"1の最後尾での通過となる。2周目は集団のペースが上がリバックストレートでは集団から離されかけたが何とか粘り、ラスト100mからスパートで1人を抜き返して、1'58"67の組6着でゴールし

た。

伊藤は、こここのところ練習の調子は良くなかったが、急遽決定した対校戦という大きな舞台で、自己ベストに近い記録で走れているのは力がついてきている証拠だろう。今後の対校戦などでの活躍が期待される。

小野はブレイクの時点では5番手あたりにつける。名大の選手が飛び出したものの小野を含む後方の集団は比較的落ち着いたペースで進む。小野は300mあたりでは集団の後方に位置していたが、ホームストレートで集団の前方に出てきて、400mは57"1での通過。そこから集団のペースは上がり、1人前に出た名大の選手との差がみるみる縮まる。バックストレートでは一時後退しかけるが、ラスト150mでしっかりとラストスパートをかけ、1'55"52の組3着でゴール。プラスで決勝進出&自己ベスト&関カレ2部B標準突破という素晴らしいレースとなった。

早川は、最後の七大戦。ブレイクから先頭に出る積極的な走り。200m通過あたりで集団に吞まれポケットされたが、しっかりとついて58"7の6番手で400mを通過。しかしバックストレートから離され始め、必死の粘りも及ばず1'58"79の組5着だった。本人としても非常に悔しい結果となったが、下の学年の選手には常に真摯に陸上に取り組む姿を見せてくれた。

11:15 女子 100m 決勝

7レーンに内山(2年)の出場。予選のタイムの上では内山は5番手。得点を獲得するためには12"6あたりが必要となると考えられ、自己ベスト以上で走らなければならないと考えられる厳しい状況ではあるが予選はいい戦いであったため得点獲得を期待したい。

号砲が鳴る。反応は五角、スタートからの加速の時点では4番手か5番手あたり。しかし20mを過ぎたあたりから前の4人はいい加速からスピードに乗り、内山は徐々に離されてしまう。そのまま4人との差を詰めることはできず、5位でゴール。結果は12"77(+1.0)の5着で惜しくも得点とはならなかった。4着までは12"60を切ってくるというハイレベルなレースで前の4人には力の差を見せつけられたレースであったものの、自己ベストを更新するいいレースであったと思われる。今後のさらなる成長と、今後の対校戦での得点獲得を期待したい。

11:20 男子 100m 決勝

対校男子100m決勝には7レーンに阿久津(2年)が出場した。予選と同様素晴らしいスタートからスピードに乗り50m地点では4番手に付けたが、終盤は予選のレースほどトップスピードを維持できずにゴール直前で2レーンと4レーンの選手に追い抜かれ、10"94の6着でゴールし、1点獲得。5着の選手とは0"01差、4着の選手とは0"02差でラストの減速が悔やまれるが、去年は予選敗退に終わった七大戦対校男子100mで見事得点を獲得した。

11:35 男子 110mH 予選

2組3レーンに中島(4年)、3組7レーンに村井(2年)の出場。1組4レーンで出場予定だった實田(4年)はDNS。湿度は高めだが気温はそこまで上がらず、比較的良好なコンディションの中でのレース。申請タイムでは中島は16番目、村井は14番目と厳しい戦いが予想されていた。

2組の中島は、1台目は他の選手にあまり遅れることなくクリアしたが、2台目で抜き足を引っ掛けて減速してしまう。その後は順調に飛び越えていくが周りには離されてしまい、8台目で再び抜き足をぶつけ、その後2台をなんとか乗り越えてゴール。結果は5着でタイムは17"22(+1.0)であった。

3組の村井も、初めは周りにあまり遅れを取らずに乗り越える。全体的にハードリングで大きな減速はなかったものの、周りに徐々に離されてしまう。最終的には5着の16"32(+0.3)でゴール。

中島、村井ともに決勝進出はならず、四大戦に続いてこの種目で得点を取ることはできなかった。両選手とも技術面において改善の余地はあり、今後の対校戦での雪辱に期待がかかる。

11:55 男子 3000mSC 決勝

男子3000mSCには脇岡(3年)、阿部(2年)、栗山(2年)の3人が出場。自己記録と練習状況から阿部は表彰台、脇岡、栗山は入賞を目標としていた。天候は曇りで少し蒸し暑さがあった。

スタート直後、阿部がいいスタートを切る。1人が抜け出し独走する中、阿部は第2集団先方に位置する。栗

山、脇岡も第2集団のやや後方で落ち着いて走る。3人はその位置を維持しながら1000mを通過。阿部が3'08、栗山が3'10、脇岡が3'11でラップを刻む。徐々に第2集団がバラける中、栗山が順位を上げていき、1500m過ぎで阿部を抜かし5位に浮上。1000mを過ぎたあたりで脇岡は集団から遅れ始めた。そのまま3人は2000mを通過。3人の1000mから2000mのラップタイムは阿部が3'14、栗山3'11、脇岡3'19。2000m時点で栗山が阿部の前方を走り阿部は入賞争いの中にいた。その後約1周で栗山のペースが一気に落ちる。ラスト600mで阿部が栗山を抜く。阿部はそのまま他校の選手と争いながらラスト1周。阿部はそのまま9'35"80(3'13)で6位入賞を果たした。脇岡はラストの直線で栗山を抜き脇岡が10'07"59(3'36)の17位、栗山が10'11"02(3'50)の18位でゴール。

12:20 男子 4×100mR 決勝

2レーンに井上(1年)・聲高(1年)・影山(2年)・阿久津(2年)の走順で出場。1、2年生のみのメンバーで臨んだ。12時20分のスタート時には、雨は上がっていたものの、依然として湿度の高い状態が続いていた。井上と阿久津は午前中の100mに出場しており、そこでの好記録からいっそうの期待が集まった。

各校とも互角の展開となった1走で、井上もまずまずの走りを見せた。しかし、1、2走間のバトンパスがいくぶん詰まった形となり、少し差の広がった状態で聲高にバトンが渡った。聲高の走りで差が挽回されたものの、2、3走間のバトンパスにやや時間がかかり再び出遅れる形となった。3、4走間のバトンパスは順調であり、影山、阿久津の走りで遅れを取り戻しつつのゴールとなった。先頭には遠く及ばず、41"52で4位という結果に終わった。

結果として資格記録そのままの順位となったが、バトンパスでのロスを考慮すれば、より良い記録や順位を狙えたレースであった。1、2年生メンバーでの出場であり、今後の進化が期待される。通し練習などより実践的なバトン練習を通じての改善が望まれる。

12:30 男子 5000mW 決勝

気温はそこまで高くなく日差しもほとんどない曇り空

ではあるが、湿度が90%もある中でのレースであった。しかし、ここ最近の天候状態もずっと同じようであったので安定した歩きが期待された。

最初の1周で2人とも第2集団の先頭周辺に集まり5、6番手で順調に歩き出す。最初の1キロは4'23。この後1キロから2キロまでもこの集団に大きな変化はなく、堀江、棟重も安定した歩きを見せる。この1キロは4'32であった。ここから3000mまでの1キロでも集団自体に大きな変化はなかったが、3000m付近で棟重に警告が3つ付き失格となってしまう。ここで堀江は1キロ4'33の4番手でしっかりと集団の先頭付近についていく。そして次の1キロの間で堀江がペースを上げ集団を抜け出しここについてきた選手と4位争いを繰り広げる。ここでの1キロは4'27。そして最後の1キロで後ろからスパートをかけてきた選手さらに混合した争いが起きるものの最後の1周で相手に競り負けて最終的に7位でゴールした。この1キロのラップは4'30と前の1キロより少し落ちた。

結果としては、堀江が22'25"37の7着で棟重が失格であった。2人とも後味の悪い終わり方となり、また当初の予定であった入賞もできず、悔しいレースとなった。

13:35 男子 200m 予選

対校男子200mは3組で行われ、各組上位2着+2が決勝に進出できる。

競技の時間には時折降っていた雨も上がっていたが湿度が高く走りやすい気候とは言えなかった。

1組3レーンに聲高(1年)が出場。資格記録は全出場者の中でもっともよい21"58で、優勝の期待がかかっていた。

聲高は予選では余裕を持って1着でフィニッシュ。決勝進出を果たした。時間は21"99(+0.0)であった。

2組4レーンに長久(4年)が出場。資格記録は組の中で5番目であった。

スタート直後から内側を走る選手に追いつかれ苦しい展開となり、100m地点のコーナーを曲がってからも伸びきることなくそのままゴール。組7着で時間は22"84(-0.5)。残念ながら決勝進出はならなかった。

3組4レーンに河野(4年)が出場。組トップタイの資格記録を持つ彼には決勝進出の期待がかかっていたが、コ

ーナーを曲がった時点でトップの選手に離されそのまま伸びることなく4着でフィニッシュ。時間は22"26(-0.4)で本来の実力を発揮できず決勝進出はならなかった。

13:50 女子 3000m 決勝

高石(3年)、藤原(3年)の出場。

スタート後は1人阪大の選手が飛び出し、高石は2位集団の先頭、藤原は集団の最後尾につける。1000mの通過は高石が3'22、藤原が3'25。依然阪大の選手が先頭を走り、高石は京大の選手と2位集団を作りこれを追う。1400m付近で高石が前に出て阪大の選手を追う。一方、藤原は10位集団の先頭を走る。2000m手前で高石は先頭をとらえ、後ろにぴったりとつく。2000mまでの1000mは高石が3'27、藤原は3'38とやや落ちた。藤原は2000mの通過あたりから苦しくなる。前に離されてしまいストライドも小さい走りとなってしまった。高石は、2700mあたりで一氣に前に出てスパートをかける。そのまま見る見るうちに差を広げ自己ベストとなる10'15"39の1位でゴールし、800mとの二冠を達成した。藤原も苦しい中、走り切り10'57"21の10位でゴール。ラストの1000mは高石が3'26、藤原が3'53だった。

東大としては4点を獲得した。女子は、最近が高石の活躍が目立つが、他の選手も刺激を受けて活躍することを期待したい。

14:15 女子 400m 決勝

坪浦が6レーンで出場。資格記録では2位、予選のタイムは1位だった。最初からある程度力を使って走り、最終コーナーを抜けたところで2位。追いついたが抜くことはできず、58"40の2位でゴール。1位の57"08は大会新記録だった。優勝できなかったことは残念だが、最後の七大戦で素晴らしい走りを見せてくれた。

14:30 男子 800m 決勝

1レーンに小野(2年)の出場。相変わらず蒸し暑い天候の中のレースとなった。

スタートから非常に遅いペースとなり、団子状態で200mを通過。誰も積極的に出ようとせず非常に走りにくそうだが、小野もしっかり集団の中にいる。400mの通過は66"3の7番手。非常に遅い通過となり、熾烈な

スパート合戦に向けどの選手も力を溜めている様子だ。500mの通過から急激にペースアップし、小野も反応し、650mあたりでは5番手に上がろうとしたが、予選の疲れからだろうか切れのあるスパートとはならず、2'03"45の7位となり得点獲得はならなかった。

今後、関カレなどで戦うためにも1日2本走る力や様々なレースに対応できる力をつけていってほしい。

15:20 男子 200m 決勝

対校男子200m決勝には予選を組1着で通過した聲高(1年)が出場。

資格記録がトップということもあり1年生ながら優勝に期待がかかっていた。予選同様雨は降っていなかったものの蒸し暑く、走りにくい気候であった。

いいスタートを切り、いつものように後半から伸びてくるかと思われたが、疲れがあったのだろうか、あまり伸びきれず他選手にも抜かれてしまい4着に終わった。時間は21"92(+0.0)で本来の結果を出しきれず終わってしまったという結果になった。しかし決勝に残っていた1年生は聲高1人で他は3年生、4年生であったので来年度以降も聲高の走りに期待したい。

15:25 男子 5000m 決勝

松本(4年)、近藤(3年)、阿部(2年)の出場。近藤は資格記録トップで大会新記録での優勝が期待された。松本と阿部も粘りの走りで入賞を目指す。気温も上昇し、湿度も高く、長距離にとっては厳しいコンディションであった。

レースは21名でスタート。スタート直後から近藤は京大の選手とトップ争いを展開。松本と阿部はそれぞれ第2集団の中盤、後方につく。最初の1000mは、近藤が2'52"、松本と阿部が3'00"。その後、近藤は京大の選手と次の1000mを2'57"で走り、2500mで京大の選手が落ちると単独トップとなる。2000mから3000mのラップは2'58"。松本は徐々に順位を上げ、1000mから3000mのラップは3'03"-3'01"で、全体6番手へ。阿部は3'04"-3'02"で走り、3位集団についていく。近藤は単独トップになってから独走を続け、3'00"-2'56"と刻み、14'43"72の1位でゴール。3位集団は3200mで8人に絞られるが、松本と阿部は集団に食らいつき、3000mから

4000mのラップはそれぞれ3'05"、3'06"。阿部は北大の選手のスパートに反応するが、4200mから4600mで抜かれ、あと一步届かず15'08"07の7位でゴール。ラスト1000mは2'56"であった。松本は4000mを通過すると集団から落ち始め、ラスト1000mを3'08"で走り15'19"82の11位でゴール。

近藤は優勝できたが目標としていた大会新記録は樹立できず、本人にとっては悔しいレースとなった。松本と阿部は粘り強さを見せたが入賞には届かなかった。箱根駅伝予選会でのリベンジを期待したい。

15:50 女子 4×100mR 決勝

6レーンに荒木(3年)-坪浦(4年)-内山(2年)-高石(3年)の走順で出場。第1走者と第4走者は中距離パートであり、短距離は専門外である。しかし、高石は800mを大会新で優勝、更に3000mも自己ベストで優勝。内山も100mの自己ベスト更新に加えて、走幅跳を大学ベストで優勝しており、チームとして好調がうかがわれる。4×100mRでは、短距離選手を揃えてきている大学もあるものの、うまくレースの流れに乗れば、上位入賞も期待される。

荒木はスタート直後に1つ内側の北海道大学に抜かれてしまう。また、1つ外側の大阪大学にも徐々に離される。しかし、落ち着いて自分の走りをし、坪浦にバトンパス。スムーズに繋がる。坪浦は主将としての意地を見せ、400mを予選・決勝と走った疲労など感じさせない、のびやかな走りで他大学との距離を縮めてゆく。7チームのうち中盤あたりで内山へとバトンパス。内山は内側の大学との差をみるみるうちに詰める見事な走り。100m入賞者のプライドを見せる。外側の東北大学・大阪大学に次ぐ3番手争いとなる位置で高石に繋いだ。高石は専門外でありながら動じない走りを見せる。800m、3000mを走ったのが嘘であるかのような軽やかな走り。3番手争いからは名古屋大学が少し抜け出すが、他の大学との勝負を制し、得点圏を死守。51"23で4位でのフィニッシュとなり、1点獲得であった。

3区間ともバトンがミスなく決まり、各走者は実力を十分に発揮したと言える。専門外選手や、複数種目出場者がいる中、大健闘であった。

15:55 男子4×400mR 決勝

7レーンに小嶋(3年)・河野(4年)・兄井(4年)・長久(4年)の走順で出場。日差しは弱く涼しく走りやすいコンディションであった。

1走小嶋はまずまずのスタートを切る。400mで惜しくも予選落ちした悔しさを晴らすレースが期待された。しかし、残り100mで6レーンの名古屋大学の選手に抜かされる。最後まで懸命に走るも全体の5番手で河野にバトンパス。バトンを受けた河野は200mでまさかの予選落ちし、調子が心配されたがまずまずの走り。最後50mで前の選手との差を詰めるもそのまま5番手でバトンを渡す。3走兄井は、今シーズン怪我に悩まされていたが前の日行われたOP400mでSBを出し調子を上げてきていた。兄井は冷静に前の集団を追い、最後の直線で大阪大学の選手を抜き4番手で長久にバトンを渡す。しかしバトンパス直後、大阪大学に抜かれ5番手に後退。長久はバックストレートで懸命に前を追い、4番手に浮上。しかしややオーバーペースとなり残り50mで抜かされ5位でゴール。記録は3'17"45。

4人の選手は全員ほぼ実力通りの力を発揮したが、結果は5位。個々の絶対的な走力の向上が求められている。

◎フィールド種目

7/29(土)

14:30 男子ハンマー投 決勝

加藤(4年)の出場。天候は晴れ。男子ハンマー投げは1日目に行われる唯一の対校種目であるため、ここでの結果がチームの勢いに大きな影響を与えると思われた。

1投目にベストとなる29m92を記録し、続く2投目には31m89を投げさらにベストを更新、この記録でベスト8に残った。得点ラインは34~35mと予想されていたため、4投目以降での更新が期待されたが、4、5投目は30m付近の記録をコンスタントに残すもベスト更新とはならなかった。6投目はファールとなり、31m89、全体の8位で競技を終えた。得点とはならなかったが、ベストを更新してベスト8に残り、チームに勢いを与える結果となった。

7/30(日)

10:00 男子三段跳 決勝

木下(3年)、平木(3年)、原澤(2年)の出場。暑さだけでなく、湿度も高い環境であった。木下は怪我からの痛み上がりであり、持っている力をどれだけ発揮できるか。平木、原澤の両名はここ最近で調子を上げてきており、原澤は初対抗となった。事前のランキングでは2人が9位、10位となっており、得点も狙いに行きたい位置。対抗戦を左右し得る種目であった。

練習跳躍では、調子が良すぎるゆえか、平木の助走が全く合っておらず、平木はその流れで2回連続でファールとなった。一方、木下は1本目に14m42とエイト安泰の記録を残した。原澤も1本目はファールするものの、続く2本の中で、13m78、13m97と自己ベストを大きく更新し、跳躍終了時点で七位に食い込み、東大の応援席を沸かせた。しかしここで平木がそのまま終わるはずもなく、助走を少し抑えた平木は、3本目で13m98を跳び、1センチ差で原澤を抑え8位に入った。この時点で木下は3位、平木は8位でエイトに入り、原澤は惜しくも9位で競技を終了した。その後の跳躍では、木下が思うような跳躍ができない一方、平木は4、5本目と跳躍が乱れたが、6本目に再びドラマを起こした。ファールギリギリの踏切から、自己ベストを大きく更新する14m38。関カレB標準を超える跳躍を披露し、本人もガッツポーズ。最終的には、木下も1人に記録を抜かれ、木下が14m42の4位、平木が14m38の5位で競技を終了した。

木下は怪我が原因で振るわなかった一方で、平木、原澤は自己ベストを大きく更新した。木下に次ぐ2番手、3番手の成長が見られた試合であった。ここに完全復活した木下が加われば、三段跳は大きく点数を狙える種目の一つとなる。大きな波に乗った今回の試合。これからの東大三段跳チーム全体としての成長に期待がかかる。

10:00 男子やり投 決勝

蒸し暑い中、七大戦男子対校やり投げ決勝は行われた。本校からは中村(1年)、八木澤(3年)、加藤(4年)が出場した。中村は1投目、やりが大きく吹き上がり38m48。2投目、助走はまとまったもののリリースで勢いを欠き42m55。3投目、リリースを強くすることを意識するあまりラストクロスで減速し41m20。18位で競技を終え

た。八木澤は1投目、助走の勢いが乗らず42m37。2投目、やりが吹き上がり42m43。3投目、うまくリリースしたものの、助走スピードが足りず46m85。16位で競技を終えた。加藤は1投目、ラストクロスの減速がいつもより少なく、いきなり50m86を投げる。2投目は力み過ぎたのかリリースが合わず、飛距離が伸びなかったためファウルを選択。3投目は投げる前にやりの尻が地面についてしまいファウルとなった。惜しくも9位で競技を終えた。中村には練習の時から全助走の本数を増やすことで安定して記録を出せるようにしてもらいたい。八木澤には助走スピードを上げて投げる練習に取り組んでもらいたい。加藤には好調子を維持しつつ、安定して50mを投げられるようにしてもらいたい。一橋戦、京大戦に向けてそれぞれのさらなるレベルアップに期待したい。

11:00 男子棒高跳 決勝

9番に實田(4年)、16番に三宅(2年)の出場。前日、土曜日の試合とは打って変わり朝から雨が降ったり止んだりを繰り返す中、非常に高い湿度の中での試合となった。實田は最近の練習跳躍で自己ベストを4m台の跳躍をみせ自己ベストの大幅な更新での上位入賞が期待された。また、三宅は直近に行われた香川県選で東大記録更新と全日本インカレ出場を果たす、5m10を跳んでおり、こちらもさらなる記録の更新とともに優勝が期待された。

3m40から登場した實田は、1本目は惜しくもバーを落とすも2本目で難なくクリア。続いて3m60も2本目でクリアした。続いて自己ベストへの挑戦となる3m80へバーが上がり、応援の熱も一層高まる。しかし、わずかに力及ばず3本ともバーを落としここで試合を終えた。

唯一人4m60から登場した三宅は、1回で難なくクリアする。そこまで残っていた他の選手は誰もこの高さを跳べず三宅は一度の跳躍で優勝を決め東大記録保持者としての貫禄を見せた。ここから記録への挑戦となる。大会記録は5m03。続く4m80も一度で成功。さらに5m00へバーは上がる。しかし、この高さは3回とも不成功となり、記録4m80で試合を終えた。

12:00 男子走高跳 決勝

赤塚(2年)の出場。天気は曇りでありながら、名古屋故

か非常に湿度の高い試合となった。赤塚は今年に入り、自己ベストを10センチ更新するなど成長著しく、また他大学の練習にも積極的に参加するなど、更なる成長も期待される。今大会では事前のランキングでは7位であったが、同記録が4人いるなど、非常に混戦となることが予想された。

赤塚は1m80からのスタート。1本目では心の余裕もあったためか、バーを大きく超えてクリアした。しかし続く1m85では、1本目に足を引っ掛けてしまう痛恨のミス。2本目で危なげなくクリアするが、試技回数が得点に影響しかねない混戦の中で、手痛いミスをしてしまった。続く1m90は、得点の分かれ目になるであろう高さであったが、気合も十分、1本目で余裕のクリアであった。自己ベストにも関わらず跳躍の高さはバーを大きく超えており、1m95にも期待のかかる跳躍であった。しかしこの時点で、他大学の選手たちも1m90を思いの外クリアしており、10人以上が1m95に挑戦することとなった。1m95では、他大学の選手たちが失敗する中、赤塚も力みが出たか、1m80や1m90のような跳躍ができず、三本ともバーを落とすこととなった。赤塚は1m90で競技を終了した。しかし、試技回数に関係もあり、6位タイで0.5点を獲得した。

今年更新したばかりの自己ベストである1m90を余裕でクリアしたことは、記録更新でこそないが、成長の確かな証であった。シーズンも後半に入り、これまでの練習で得た技術も試合に現れてきている。2mもすでに射程圏内の高さだ。残りシーズンでどこまで記録を伸ばせるか、非常に楽しみである。

12:00 男子砲丸投 決勝

対校男子砲丸投には、加藤(4年)、土井(4年)、佐竹(3年)の出場。時折小雨が降り涼しい天候の中行われた。11m付近の記録を持つ選手が多く、エイトに残るためにもその程度の記録が求められると予想されていた。自己記録が10m76であった佐竹は1投目10m97といきなり更新し、更に伸ばしたいところだが2投目は上手く押し出せず10m90、3投目も失投。昨年の七大戦で1m以上記録を更新した土井には今年も期待がかかっていた。1投目まざまズの投擲を見せると2投目で11mを超え、その勢いそのまま3投目に11m33とこちらも自己記録を更

新。今季 11m21 まで記録を伸ばしていた加藤だが、前日のハンマー投、直前のやり投で疲労が溜まっている様子で、1 投目はサークルに留まらずファール。2 投目、3 投目共に 10m 半ばの投擲で 10m61 が記録となった。3 投目まで終わって土井が 4 番手、佐竹が 7 番手につけてエイトに残ったが、加藤は惜しくも 9 位で競技を終了した。4 投目以降出来るだけ順位を上げたいところであったが、土井、佐竹共に少し疲れてきたまま上手く切り替えられない間に、5、6 番につけていた阪大の選手が大きく記録を伸ばして、さらに 6 投目で名大の選手が 11m 中盤をマークして 7、8 番手に。後がなくなった 6 投目にも記録を伸ばすことが叶わず得点出来なかった。各人とも 3 投目までに集中、修正する能力と共に 6 投目まで息切れしない体力をつけることが求められるだろう。

14:00 男子走幅跳 決勝

11 番に栗原(1 年)、13 番に草野(4 年)、21 番に木下(3 年)の出場。朝は少し雨が降っていたが、本番は止み気温も高い中での試合となった。

1 本目は栗原が無風の中自己ベストに並ぶ 6m88 を跳ぶ。しかしその後風が少し向かい、残りの 2 人はファール、続く 2 本目は 3 人ともファールとなった。草野と木下は背水の陣となったがここでの巻き返しが期待された。そして 3 本目は草野と栗原は足が合わなかったものの、木下が追い風 0.6m の中 7m04 を跳び栗原とともにベスト 8 に残った。4 本目は 2 人とも記録が振るわない。続く 5、6 本目も木下はファール、栗原も記録を伸ばすことはできなかった。結果、木下が 6 位、栗原が 7 位、草野が 10 位だった。

今回はなかなか実力を発揮することができず、1 点のみの獲得となった。残念な結果となってしまったが、今回の多くの反省点を活かしてこの先の成長に期待したい

14:00 女子走幅跳 決勝

11 番に内山(2 年)が出場。ぐずつく天気のため午前中から非常に湿度が高いコンディションであった。そして気温も最高潮に達する 14 時からの試合であった。内山は午前中の 100m にも出場し好タイムで決勝に残り、専門の子の種目でも大いなる活躍が期待された。

午前中の疲れも特に見せない内山は 1 本目から 5m48

と自己ベストに迫る大跳躍。全体的にまとまったいい跳躍でこの日の調子の良さがうかがえた。続く 2 本目はファールとなるも、その後の 3 本目でさらに記録を伸ばし 5m55。この時風は追い風 1.0m であった。3 本目終了時点で 2 位と 17cm 差の全体トップ。ベスト 8 の試技へ進む。4 本目は 5m35 で惜しくも記録を伸ばすことはできず。さらに 5 本目、6 本目もファールにより記録は残らなかった。2 位の選手が 6 本目で記録を 5m49 まで伸ばすも、内山は 1 位の座を守りきり優勝を飾った。

終盤の跳躍で少しファールが多かったことを除けば、全体的にまとまったパフォーマンスを出し続け、改善点が多く見られた四大戦から大きく進歩したように見られた。今回は多種目への出場ということもあり、疲労の影響もあったと思われるが、ベストエイト以降の試技での安定性をより高めれば、今後の対校戦でさらなる活躍を期待できる。

14:00 男子円盤投 決勝

円盤投げには、土井(4 年)山之内(4 年)佐竹(3 年)の出場。グラウンドコンディションは前日ほど暑くはなく、やりやすい天候であった。1 投目、山之内は右側のネットに当ててしまいファール。佐竹は 31m97 と 1 投目から順調な滑り出しであったが本人としては首をひねっていた。土井は本人の感覚としてもよさそうであった。2 投目では、山之内は円盤の軌道が低くなってしまい、いい記録が出なかった。佐竹はターンの途中でバランスを崩してしまい、ファールとなってしまった。土井は気合が入っていたが、伸びたように見え 31m であった。3 投目、山之内は軌道を高く修正したものの、力を円盤に伝えきれず、27m41 であった。佐竹は 34m17 を投げ、自己ベストを更新する会心の投擲を見せた。佐竹本人も大変嬉しそうであった。土井は高く上がりすぎてしまった。3 投目まででは佐竹が 5 位となり、ベスト 8 に残ったが、土井、山之内は惜しくも決勝進出にはならなかった。特に土井は 9 位であり、もう一歩であった。4 投目、佐竹はまだまだ伸ばしそうな気配を感じさせる投擲であった。5 投目は右にそれてしまいファール。6 投目は良い軌道ではあったが 30m82 で記録を伸ばすことができなかった。結果としては、土井が 31m80 で 9 位、山之内が 27m41 で 15 位、佐竹が 34m17 で 6 位であった。

3. 選手の言葉

短距離2年 阿久津大貴 (100m,4×100mR)

七大戦は100mと4×100mリレーに出場させていただきました。

100mの予選では10"85の自己ベストを出し、関東インカレ2部のB標準を突破することができました。今シーズンの前半は、怪我の影響で冬季練習が十分にこなせなかったためあまりタイムが伸びていかなかったのですが、五月から小林寛道先生のQOMジムでのトレーニングを始めたところ、七月にはスタートの動きが大幅に改善され、七大戦直前の一ヶ月の間に大学ベストを0.25秒縮めることができました。今回のレースでも前半にリードできたことでリラックスして走ることができ、自己ベストにつながったと思います。しかし決勝では、予選よりもタイムを落とし6位という結果に終わりました。これからの練習では、精神面も含め強化していきたいと思っています。

4×100mリレーは41.52の4位でした。今回のチームは1、2年だけで構成されたことから、大会前のバトン練習などは特に入念に行いましたが、やはり経験不足が出たと思います。しかし部内にはリレーメンバー入りを希望する選手が多くいます。走力アップや経験を積み重ね、互いに競い合うことで、近い将来東大記録を更新し40秒を切るようなチームになることが出来ると思っております。

応援やサポート本当にありがとうございました。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

中距離3年 高石涼香 (800m,3000m,4×100mR)

女子対校800m、3000mに出場しました中距離3年の高石です。OB・OGの皆様には日頃よりご支援・ご声援のほど誠に感謝しております。

800mはシーズンベストが2'11"台が1人、2'12"台の選手が1人、13"台の選手が2人と例年になく七大戦はかなりのレベルの勝負となりました。その中で確実に勝ち、さらに全日本インカレのレースの前哨戦とするために、渡邊コーチとの相談の結果、2周目で落とさない・400m

から600地点でペースを上げて後続を引き離しそのままスパートをかけて優勝する、という2点を目標として走りました。結果として400m地点まで北海道大学の選手を前に出し、そこからペースアップして後続を離して理想の展開で優勝することが出来ました。

3000mもコンディションに恵まれ、前半飛び出した大阪大学の選手にはついていかず、ラスト勝負に持ち込むという判断が功を奏したのか、ラストの300mで先頭との差を詰めて、下馬評を覆し二冠することができました。

個人としては二種目で勝ち、女子パート全体としては3位という結果になりました。しかし今後女子パートが七大戦で結果を残すためには、個人の競技力アップは言わずもがな、女子部員をより増やし切磋琢磨できる環境にすること、そして女子部員が様々な種目で活躍できるようにすることが重要となります。今回の結果を真摯に受け止め、今後も女子パート一同精進してまいります。

応援・サポートなどありがとうございました。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

長距離2年 阿部飛雄馬 (5000m,3000mSC)

今シーズンは故障続きでここまで思うような結果を残せなかったため、この七大戦は前半シーズンの悪い流れを断ち切り後半につなげる重要な大会と位置づけていました。7月初頭に故障から復帰し練習を再開、約1ヶ月という短い期間で七大に合わせることになりました。

3000mSC、5000mともに表彰台を目標としていました。

3000mSCはランキングではトップではありましたが実力は拮抗しており、終盤の走りが鍵を握ると考えていました。練習をあまり積めていないこともあり消極的なレースになり、序盤のペースをなんとか維持して周りが落ちるのを待つという展開になりました。結果は一度も先頭争いに絡むこともできず6位。昨年の5位から順位を上げられなかったことを素直に悔しく思いました。

5000mは3000mSCの約3時間後ということで過酷な条件ではありましたが、周りの方々が回復のための環境を整えてくださったおかげで非常に良い状態でレースに臨めました。

結果は昨年同様7位という結果に終わってしまいましたが、3000まで楽に集団についていきポジションを上げ

てスパート、というレース前のプラン通りの走りの後半は一時集団の主導権を握る積極的な走りができただけは、ただ終始ついていくことしかできなかった昨年からの成長できた点だと思います。

対校選手として周りの期待に応える走りができなかったことは今でも悔いています。来年は自分も周りも納得できる走りでも結果を残せるよう、この夏からしっかりと体を鍛えなおしたいと思います。

跳躍3年 平木基人 (三段跳)

今回の七大戦では、2つ目標を掲げていました。1つ目は関東インカレの標準を突破すること、もう1つは得点を取ることです。結果から言いますと、どちらも達成することができました。まずはホッとしているという気持ちがありつつも、もう少し跳びたかったという思いもあります。直前の感覚では14m70~80くらいは妄想とイメージが4:6くらいまでいけていたのですが、予想外の出来事がこれまた2つ起こりました。まず前日調整で足首を痛めてしまったこと。このせいで一時は棄権も考えたほどでした。応援とアドレナリンのお陰でなんとかしたので、これらには感謝してもしきれません。もう1つは当日の天気が悪かったことです。こちらは天気予報である程度は分かっていたのですが、もともとの想定では昨年のように倒れるくらい気温も高くカラッと晴れる試合を期待していたので記録を狙うという点では不利なコンディションでした。ただ手負いで出場した私にとっては、結果的にはプラスに働いたと言えるでしょう。周りの記録帯も低くなって、14mに届かない記録ながらトップエイトに残ることができ、6本目でベストを出すことができたからです。

この後はしばらく練習を積むことができるので、もう1段階成長して、次の京大戦では、15mを跳んで同期の木下を下して優勝します。

跳躍2年 内山咲良 (100m,4×100mR,走幅跳)

今回、100m、走幅跳、四継に出場させていただいた跳躍2年の内山です。今シーズンは調子が低迷していたので、七大戦も不安の中で迎えましたが、100mでは自

己ベスト、走幅跳は大学ベストを更新することができました。調子が上がらず、陸上に対するモチベーションが下がりそうになっていたときも、同じパートの同期や先輩のアドバイスや、期待をかけて応援してくれた皆様に支えられたからこそ、なんとかこの半期のスランプを打開できたと思っています。

とはいえ、結果は満足のいくものではありませんでした。100mも得点することは叶わず、力の差を見せつけられる形になりましたし、走幅跳も自己ベストにはまだたどり着いていません。これから更に練習を重ね、もう一段、強い選手になれるよう精進したいと思います。

4. 試合結果

第68回全国七大学対校陸上競技大会

男子100m

予選(3着+2)

1組(+0.8)

2 阿久津 大貴 東大 10"85

2組(+1.1)

7 後藤 裕瑛 東大 11"28

3組(+0.9)

5 井上 昂 東大 11"02

決勝(+0.1)

1 澤 薫 京大 10"64

2 藤井 佳祐 東北大 10"72

3 安藤 滉一 京大 10"86

4 橋本 太翔 名大 10"92

5 木下 将一 阪大 10"93

6 阿久津 大貴 東大 10"94

男子200m

予選(3組2着+2)

1組(+0.0)

1 髙橋 健吾 東大 21"99

2組(-0.5)

7 長久 将 東大 22"84

3組(-0.4)

4 河野 太郎 東大 22"26

決勝(+0.0)

1 澤 薫 京大 21"57

2 長谷川 有希 名大 21"86

3 本司 澄空 九大 21"87

4 聲高 健吾 東大 21"92

5 久新 陽一郎 北大 21"99

6 白鳥 海知 東北大 22"25

男子 400m**予選(3組2着+2)****1組**

6 伊藤 康裕 東大 51"71

2組

6 加藤 正凌 東大 51"98

3組

3 小嶋 健太郎 東大 50"02

決勝

1 佐藤 弘樹 阪大 48"18

2 嶋田 健太郎 名大 48"32

3 志賀 颯 阪大 48"40

4 水戸部 慶彦 東北大 48"67

5 小谷 哲 京大 48"80

6 小原 幹太 京大 49"39

男子 800m**予選(3組2着+2)****1組**

6 伊藤 龍一郎 東大 1'58"63

2組

3 小野 康介 東大 1'55"52

3組

5 早川 航平 東大 1'58"79

決勝

1 川口 航汰 東北大 2'01"31

2 砂原 健汰 名大 2'01"92

3 安部 光騎 阪大 2'01"92

4 佐藤 宏夢 東北大 2'01"99

5 小畑 皓恭 北大 2'02"13

6 土屋 維智彦 京大 2'02"71

7 小野 康介 東大 2'03"45

男子 1500m 決勝

1 酒井 洋明 北大 3'52"50

2 近藤 秀一 東大 3'55"14

3 吉岡 龍一 九大 3'57"44

4 清原 陸 京大 3'57"55

5 荒田 啓輔 東北大 3'57"64

6 金網 航平 北大 4'01"48

7 妹背 雄太 東大 4'04"21

21 渡部 慎也 東大 4'29"33

男子 5000m 決勝

1 近藤 秀一 東大 14'43"72

2 酒井 洋明 北大 14'55"51

3 尾崎 拓 京大 14'55"85

4 岩見 直弥 九大 14'58"83

5 竹鼻 大貴 北大 15'04"90

6 柴田 裕平 京大 15'05"51

7 阿部 飛雄馬 東大 15'08"07

11 松本 啓岐 東大 15'19"82

男子 110mH**予選(3組2着+2)****2組(+1.0)**

5 中島 盛喜 東大 17"22

3組(+0.3)

5 村井 輝 東大 16"32

決勝(+1.0)

| | | |
|----------|----|-------|
| 1 真野 悠太郎 | 名大 | 14"34 |
| 2 岩瀬 累 | 名大 | 14"46 |
| 3 本間 貴裕 | 阪大 | 14"58 |
| 4 手石 雅人 | 名大 | 14"76 |
| 5 田中 俊輔 | 阪大 | 14"81 |
| 6 小野 貴裕 | 京大 | 15"03 |

男子 400mH**予選(3組2着+2)****1組**

| | | |
|---------|----|---------|
| 6 今井 樹宏 | 東大 | 1'01"21 |
|---------|----|---------|

2組

| | | |
|---------|----|-------|
| 5 松田 光陽 | 東大 | 56"92 |
|---------|----|-------|

3組

| | | |
|-------|----|----|
| 寶田 雅治 | 東大 | DQ |
|-------|----|----|

決勝

| | | |
|----------|----|-------|
| 1 真野 悠太郎 | 名大 | 50"78 |
| 2 小田 将矢 | 名大 | 51"76 |
| 3 上野 和樹 | 名大 | 52"30 |
| 4 壹岐 晃平 | 九大 | 53"06 |
| 5 田里 康介 | 阪大 | 54"04 |
| 6 富樫 直斗 | 北大 | 54"48 |

男子 3000mSC 決勝

| | | |
|-----------------|------------|----------------|
| 1 檜山 直生 | 阪大 | 9'21"01 |
| 2 立野 佑太 | 東北大 | 9'24"04 |
| 3 土田 侑秀 | 京大 | 9'28"68 |
| 4 西 慶一郎 | 阪大 | 9'33"43 |
| 5 吉田 晃一郎 | 九大 | 9'35"78 |
| 6 阿部 飛雄馬 | 東京大 | 9'35"80 |
| 17 肱岡 佑 | 群馬大 | 10'07"59 |
| 18 栗山 一輝 | 東京大 | 10'11"02 |

男子 5000mW 決勝

| | | |
|---------|----|----------|
| 1 山西 利和 | 京大 | 20'20"05 |
| 2 中川 岳士 | 北大 | 20'34"24 |

| | | |
|---------|-----|----------|
| 3 高野 圭太 | 京大 | 21'37"17 |
| 4 古川 誠也 | 京大 | 22'04"83 |
| 5 寺島 智春 | 東北大 | 22'13"92 |
| 6 佐伯 元春 | 名大 | 22'21"99 |
| 7 堀江駿 | 東大 | 22'25"37 |
| 棟重 賢治 | 東大 | DQ |

男子 4×100mR 決勝

| | | |
|------|--------------|-------|
| 1 京大 | 加藤—安藤—庄司—澤 | 40"74 |
| 2 名大 | 岩瀬—小田—長谷川—山下 | 41"10 |
| 3 阪大 | 加地—佐藤—木下—藤本 | 41"32 |
| 4 東大 | 井上—聲高—影山—阿久津 | 41"52 |
| 5 九大 | 田上—本司—西岡—宮内 | 41"53 |
| 6 北大 | 渡辺—久新—山野—白石 | 41"87 |

男子 4×400mR 決勝

| | | |
|-------|---------------|---------|
| 1 名大 | 嶋田—小田—長谷川—真野 | 3'14"61 |
| 2 東北大 | 白鳥—水戸部—羽根田—岩波 | 3'15"95 |
| 3 京大 | 小谷—浅井—加藤—小原 | 3'16"94 |
| 4 阪大 | 志賀—平松—岩松—佐藤 | 3'17"06 |
| 5 東大 | 小嶋—河野—兄井—長久 | 3'17"45 |
| 6 九大 | 西岡—本司—吉村—壹岐 | 3'19"10 |

男子 走幅跳 決勝

| | | |
|----------------|-----------|-------------------|
| 1 中谷 豪汰 | 阪大 | 7m41(+0.6) |
| 2 角屋 喜基 | 名大 | 7m39(+1.3) |
| 3 橋本 太翔 | 名大 | 7m31(+0.7) |
| 4 木下 将一 | 阪大 | 7m28(-0.7) |
| 5 伊藤 裕也 | 名大 | 7m17(+0.7) |
| 6 木下 秀明 | 東大 | 7m04(+0.6) |
| 7 栗原 怜也 | 東大 | 6m88(0.0) |
| 10 草野 恒平 | 東大 | 6m66(-0.1) |

男子 走高跳 決勝

| | | |
|---------|-----|------|
| 1 羽田 充宏 | 阪大 | 2m04 |
| 2 山下 一也 | 東北大 | 2m04 |
| 3 大賀 春輝 | 阪大 | 2m01 |
| 4 田中 祥平 | 東北大 | 1m90 |
| 4 小山 航 | 名大 | 1m90 |
| 6 赤塚 智弥 | 東京大 | 1m90 |

6 竹田 風馬 京大 1m90

男子 棒高跳 決勝

1 三宅 功朔 東大 4m80
 2 杉山 翔馬 北大 4m50
 3 高橋 昇之 東北大 4m50
 4 生野 雄大 阪大 4m20
 5 大曲 和輝 阪大 4m00
6 安部 晋吾 北大 4m00
 10 寶田 雅治 東京大 3m60

男子 三段跳 決勝

1 中谷 豪汰 阪大 14m83(-0.2)
 2 伊藤 裕也 名大 14m61(-0.2)
 3 浜島 裕亮 名大 14m45(+0.2)
 4 木下 秀明 東大 14m42(-0.5)
 5 平木 基人 東大 14m38(-0.3)
6 吉國 利啓 阪大 14m34(+0.6)
 9 原澤 龍平 東大 13m97(+0.8)

男子 砲丸投 決勝

1 楠 哲也 東北大 13m47
 2 赤坂 健太朗 北大 12m65
 3 濱崎 拳介 九大 12m34
 4 重吉 比呂 阪大 12m04
 5 野村 琢真 阪大 11m60
6 深谷 侑生 名大 11m47
 7 土井 雅人 東大 11m33
 8 佐竹 俊哉 東大 10m97
 9 加藤 輝仁 東大 10m61

男子 円盤投 決勝

1 楠 哲也 東北大 42m61
 2 赤坂 健太朗 北大 38m25
 3 大橋 悟 京大 37m70
 4 西田 亮也 名大 35m07
 5 諏訪 雄山 九大 34m96
6 佐竹 俊哉 東大 34m17
 9 土井 雅人 東大 33m40
 15 山之内 良太 東大 27m41

男子ハンマー投 決勝

1 浅野 智司 京大 43m96
 2 野尻 英史 東北大 38m24
 3 野村 琢真 阪大 37m53
 4 大橋 悟 京大 37m06
 5 笹島 史好 北大 36m79
6 横浜 立 北大 36m24
 8 加藤 輝仁 東大 31m89

男子 やり投 決勝

1 西田 亮也 名大 62m09
 2 栗林 篤 名大 59m35
 3 楠 哲也 東北大 59m06
 4 中山 奎吾 京大 56m31
 5 浅野 智司 京大 55m66
6 野村 琢真 阪大 54m11
 9 加藤 輝仁 東大 50m86
 16 八木澤 光大 東大 46m85
 18 中村 優太 東大 42m55

総合得点

1位 名古屋大学 96.5点
 2位 大阪大学 84点
 3位 京都大学 71.5点
 4位 東北大学 64.5点
 5位 北海道大学 44点
6位 東京大学 34.5点
 7位 九州大学 25点

女子 100m

予選(2組3着+2)

2組(+0.3)

3 内山咲良 東大 12"86

決勝

1 佐貫 有彩 東北大 12"30
 2 藤原 郁美 阪大 12"49
 3 佐々木 千肅 東北大 12"52
4 岡 愛美 名大 12"53

5 内山 咲良 東大 12"77

女子 400m

予選(2組3着+2)

1組

1 坪浦 諒子 東大 58"68

決勝

1 佐貫 有彩 東北大 57"08

2 坪浦 諒子 東大 58"40

3 小野 萌子 京大 60"08

4 後藤 加奈 京大 60"86

女子 800m 決勝

1 高石 涼香 東大 2'11"89

2 野尻 真由 阪大 2'12"81

3 上條 麻奈 東北大 2'13"65

4 上田 江里子 北大 2'16"59

9 荒木 玲 東大 2'32"84

女子 3000m 決勝

1 高石 涼香 東大 10'15"39

2 三池 瑠衣 阪大 10'22"28

3 山下 奈央 名大 10'26"59

4 藤村 柚紀子 九大 10'28"96

10 藤原 ゆか 東京大 10'57"21

女子 4×100mR 決勝

1 東北大 中村一佐貫一吉村一佐々木 48"57

2 阪大 山崎一藤原一野尻一今川 49"66

3 名大 磯貝一吉田一河内一岡 50"58

4 東大 荒木一坪浦一内山一高石 51"23

女子 走高跳 決勝

1 林 玲美 京大 1m66

2 中村 真璃子 東北大 1m58

3 福田 早紀 阪大 1m55

4 塚越 千弘 北大 1m50

女子 走幅跳 決勝

1 内山 咲良 東大 5m55(+1.0)

2 野尻 真由 阪大 5m49(+1.9)

3 今川 尚子 阪大 5m38(-0.1)

4 岩本 法子 九大 5m34(0.0)

女子 砲丸投 決勝

1 大西 美佐歩 名大 10m92

2 横山 優花 京大 10m48

3 綿谷 咲良 北大 10m09

4 塚越 千弘 北大 9m61

総合得点

1位 東北大学 19点

2位 大阪大学 19点

3位 東京大学 16点

4位 京都大学 10点

5位 名古屋大学 9点

6位 北海道大学 5点

7位 九州大学 2点

5. 自己記録更新者一覧

7/8 第176回東海大学長距離競技会

10000m 佐藤悠介(3年) 34'28"02

7/9 第80回三重県陸上競技選手権大会

100m 影山優輔(2年) 11"26(+0.7)

7/23 第13回トワイライトゲームズ

800m 高石涼香(3年) 2'11"23

7/29.30 第68回全国七大学対校陸上選手権大会

100m 阿久津大貴(2年) 10"85(+0.8)

100m 後藤裕瑛(4年) 11"28(+1.1)

100m 松田光陽(2年) 11"64(-2.2)

100m 野々田聖一(3年) 12"09(-1.9)

100m 内山咲良(2年) 12"77(+1.0)

400m 下村麟平(4年) 52"27

800m 小野康介(2年) 1'55"52

1500m 長谷川祐輝(3年) 4'12"85

1500m 古賀淳平(2年) 4'18"58

| | | |
|--------|----------|-------------|
| 3000m | 高石涼香(3年) | 10'15"39 |
| 400mH | 今井樹宏(4年) | 1'01"21 |
| 5000mW | 千菊智也(1年) | 22'50"93 |
| 走幅跳 | 毛利冬悟(3年) | 6m46(+0.1) |
| 三段跳 | 平木基人(3年) | 14m38(-0.3) |
| 三段跳 | 原澤龍平(2年) | 13m97(+0.8) |
| 砲丸投 | 土井雅人(4年) | 11m33 |
| 砲丸投 | 佐竹俊哉(3年) | 10m97 |
| 円盤投 | 佐竹俊哉(3年) | 34m17 |
| ハンマー投 | 加藤輝仁(4年) | 31m89 |

6. 2017年度 部内五傑

(順位 氏名 (学年) タイム 日付)

男子 100m

| | | | |
|---|-----------|-------------|------|
| 1 | 聲高健吾(1年) | 10"83(+0.4) | 7.1 |
| 2 | 阿久津大貴(2年) | 10"85(+0.8) | 7.30 |
| 3 | 河野太郎(4年) | 10"96(+1.0) | 5.7 |
| 4 | 井上昂(1年) | 11"02(+0.9) | 7.30 |
| 5 | 平木基人(3年) | 11"21(+0.7) | 7.1 |

男子 200m

| | | | |
|---|-----------|-------------|------|
| 1 | 聲高健吾(1年) | 21"58(+1.7) | 5.27 |
| 2 | 河野太郎(4年) | 21"61(+0.6) | 5.27 |
| 3 | 阿久津大貴(2年) | 22"48(+1.5) | 7.1 |
| 4 | 長久将(4年) | 22"64(+1.0) | 6.17 |
| 5 | 後藤裕瑛(4年) | 22"95(-0.8) | 6.4 |

男子 400m

| | | | |
|---|-----------|-------|------|
| 1 | 河野太郎(4年) | 49"85 | 4.8 |
| 2 | 小嶋健太郎(3年) | 49"92 | 7.1 |
| 3 | 長久将(4年) | 50"28 | 7.1 |
| 4 | 松田光陽(2年) | 50"79 | 6.4 |
| 5 | 寶田雅治(4年) | 51"20 | 5.26 |

男子 800m

| | | | |
|---|----------|---------|------|
| 1 | 小野康介(2年) | 1'55"52 | 7.30 |
| 2 | 坂口諒(3年) | 1'55"63 | 4.8 |
| 3 | 早川航平(4年) | 1'57"45 | 6.3 |
| 4 | 妹背雄太(4年) | 1'57"48 | 4.30 |

| | | | |
|---|-----------|---------|-----|
| 5 | 伊藤龍一郎(3年) | 1'58"47 | 6.3 |
|---|-----------|---------|-----|

男子 1500m

| | | | |
|---|-----------|---------|------|
| 1 | 近藤秀一(3年) | 3'53"75 | 4.8 |
| 2 | 妹背雄太(4年) | 3'59"68 | 4.8 |
| 3 | 渡部慎也(2年) | 4'07"94 | 6.3 |
| 4 | 小野康介(2年) | 4'09"10 | 3.19 |
| 5 | 長谷川祐輝(3年) | 4'12"85 | 7.29 |

男子 5000m

| | | | |
|---|-----------|----------|------|
| 1 | 近藤秀一(3年) | 14'43"64 | 6.17 |
| 2 | 阿部飛雄馬(2年) | 15'08"07 | 7.30 |
| 3 | 松本啓岐(4年) | 15'08"84 | 6.4 |
| 4 | 栗山一輝(2年) | 15'17"27 | 6.4 |
| 5 | 妹背雄太(4年) | 15'47"42 | 4.23 |

男子 10000m

| | | | |
|---|-----------|----------|------|
| 1 | 近藤秀一(3年) | 29'16"49 | 5.25 |
| 2 | 阿部飛雄馬(2年) | 31'12"74 | 4.22 |
| 3 | 松本啓岐(4年) | 31'21"69 | 4.22 |
| 4 | 田村和也(4年) | 32'43"71 | 4.22 |
| 5 | 須藤克誉(4年) | 34'11"89 | 3.26 |

男子 110mH

| | | | |
|---|-----------|-------------|------|
| 1 | 杉森康平(8年) | 15"88(+1.6) | 6.17 |
| 2 | 寶田雅治(4年) | 15"91(+0.8) | 6.17 |
| 3 | 村井輝(2年) | 16"03(+1.3) | 4.8 |
| 4 | 中島盛喜(4年) | 16"61(+1.7) | 5.7 |
| 5 | 中尾幸志郎(2年) | 16"62(-1.8) | 6.4 |

男子 400mH

| | | | |
|---|-----------|-------|------|
| 1 | 松田光陽(2年) | 56"58 | 7.1 |
| 2 | 寶田雅治(4年) | 56"65 | 7.1 |
| 3 | 中尾幸志郎(2年) | 60"08 | 6.4 |
| 4 | 今井樹宏(4年) | 61"21 | 7.30 |

男子 3000mSC

| | | | |
|---|-----------|---------|------|
| 1 | 阿部飛雄馬(2年) | 9'35"80 | 7.30 |
| 2 | 栗山一輝(2年) | 9'50"93 | 7.1 |

| | | |
|------------|----------|------|
| 3 肱岡佑(3年) | 9'52"18 | 3.25 |
| 4 妹背雄太(4年) | 9'52"76 | 3.25 |
| 5 大庭帆貴(1年) | 10'08"25 | 7.1 |

男子 5000mW

| | | |
|------------|----------|------|
| 1 渡邊成陽(5年) | 20'52"99 | 7.1 |
| 2 棟重賢治(4年) | 21'08"55 | 6.17 |
| 3 堀江駿(3年) | 21'49"77 | 6.17 |
| 4 千菊智也(1年) | 22'20"08 | 7.30 |

男子 10000mW

| | | |
|------------|----------|------|
| 1 堀江駿(3年) | 44'39"77 | 5.27 |
| 2 棟重賢治(4年) | 46'00"02 | 5.27 |

男子 4×100mR

| | | |
|----------------------------|-------|------|
| 1 阿久津(2)-聲高(1)-河野(4)-長久(4) | 41"27 | 5.25 |
| 2 井上(1)-聲高(1)-河野(4)-竹井(D2) | 41"43 | 7.1 |
| 3 井上(1)-聲高(1)-影山(2)-阿久津(2) | 41"52 | 7.30 |
| 4 井上(1)-阿久津(2)-影山(2)-渡辺(3) | 42"19 | 6.17 |
| 5 影山(2)-田口(3)-河野(4)-長久(4) | 42"47 | 4.8 |

男子 4×400mR

| | | |
|---------------------------|---------|------|
| 1 小嶋(3)-河野(4)-兄井(4)-長久(4) | 3'17"45 | 7.30 |
| 1 小嶋(3)-河野(4)-松田(2)-長久(4) | 3'19"22 | 5.27 |
| 2 小嶋(3)-河野(4)-松田(2)-長久(4) | 3'21"14 | 7.1 |
| 3 松田(2)-長久(4)-伊藤(2)-加藤(3) | 3'23"50 | 6.17 |
| 4 河野(4)-早川(4)-長久(4)-伊藤(2) | 3'32"58 | 4.8 |

男子走幅跳

| | | |
|------------|------------|-----|
| 1 木下秀明(3年) | 7m18(-1.5) | 4.6 |
| 2 草野恒平(4年) | 6m83(+1.4) | 7.1 |
| 3 藤原暉(2年) | 6m79(-0.6) | 4.6 |
| 4 栗原怜也(1年) | 6m76(-0.3) | 7.1 |
| 5 村井輝(2年) | 6m57(+0.6) | 5.6 |

男子三段跳

| | | |
|------------|-------------|------|
| 1 木下秀明(3年) | 14m88(-0.3) | 5.27 |
| 2 平木基人(3年) | 14m38(-0.3) | 7.30 |
| 3 原澤龍平(2年) | 13m97(+0.8) | 7.30 |
| 4 毛利冬悟(3年) | 13m59(+0.6) | 3.18 |

| | | |
|------------|-------------|-----|
| 5 赤塚智弥(2年) | 13m45(+1.1) | 7.1 |
|------------|-------------|-----|

男子走高跳

| | | |
|------------|------|------|
| 1 木下秀明(3年) | 1m90 | 6.17 |
| 1 赤塚智弥(2年) | 1m90 | 6.17 |
| 3 寶田雅治(4年) | 1m65 | 3.18 |
| 4 村井輝(2年) | 1m60 | 5.6 |

男子棒高跳

| | | |
|------------|------|------|
| 1 三宅功朔(2年) | 5m10 | 7.16 |
| 2 寶田雅治(4年) | 3m60 | 5.6 |
| 3 村井輝(2年) | 3m30 | 5.6 |

男子砲丸投

| | | |
|-------------|-------|------|
| 1 土井雅人(4年) | 11m33 | 7.30 |
| 2 加藤輝仁(4年) | 11m21 | 6.17 |
| 3 佐竹俊哉(3年) | 10m97 | 7.30 |
| 4 村井輝(2年) | 9m54 | 5.6 |
| 5 山之内良太(4年) | 9m29 | 6.17 |

男子円盤投

| | | |
|-------------|-------|------|
| 1 佐竹俊哉(3年) | 34m17 | 7.30 |
| 2 土井雅人(4年) | 31m80 | 7.30 |
| 3 山之内良太(4年) | 29m93 | 6.17 |
| 4 八木澤光大(3年) | 27m43 | 7.1 |
| 5 寶田雅治(4年) | 23m86 | 3.19 |

男子やり投

| | | |
|-------------|-------|------|
| 1 加藤輝仁(4年) | 50m86 | 7.30 |
| 2 八木澤光大(3年) | 49m22 | 7.1 |
| 3 中村優太(1年) | 43m46 | 7.1 |
| 4 石田駿平(1年) | 42m69 | 6.17 |
| 5 寶田雅治(4年) | 41m36 | 3.19 |

男子ハンマー投

| | | |
|------------|-------|------|
| 1 加藤輝仁(4年) | 31m89 | 7.29 |
|------------|-------|------|

女子 100m

| | | |
|------------|-------------|------|
| 1 内山咲良(2年) | 12"77(+1.0) | 7.30 |
|------------|-------------|------|

女子 400m

| | | |
|------------|-------|------|
| 1 坪浦諒子(4年) | 58"40 | 7.30 |
| 2 高石涼香(3年) | 59"44 | 7.1 |

女子 800m

| | | |
|------------|---------|------|
| 1 高石涼香(2年) | 2'11"23 | 7.23 |
| 2 荒木玲(2年) | 2'32"84 | 7.30 |

女子 1500m

| | | |
|------------|---------|------|
| 1 高石涼香(3年) | 4'47"83 | 3.26 |
| 2 藤原ゆか(3年) | 5'07"87 | 6.3 |
| 3 荒木玲(3年) | 5'21"41 | 3.26 |
| 4 堀越美菜(3年) | 5'37"55 | 4.22 |

女子 3000m

| | | |
|------------|----------|------|
| 1 高石涼香(3年) | 10'15"39 | 7.30 |
| 2 藤原ゆか(3年) | 10'57"21 | 7.30 |

女子 5000m

| | | |
|------------|----------|------|
| 1 堀越美菜(3年) | 21'09"97 | 3.18 |
|------------|----------|------|

女子 400mH

| | | |
|------------|-------|------|
| 1 坪浦諒子(4年) | 61"94 | 7.23 |
|------------|-------|------|

女子 4×100mR

| | | |
|---------------------------|-------|------|
| 1 荒木(3)-坪浦(4)-内山(2)-高石(3) | 51"23 | 7.30 |
|---------------------------|-------|------|

女子 4×400mR

| | | |
|---------------------------|---------|-----|
| 1 堀越(3)-荒木(3)-藤原(3)-高石(3) | 4'35"34 | 7.1 |
|---------------------------|---------|-----|

女子走幅跳

| | | |
|------------|------------|------|
| 1 内山咲良(2年) | 5m41(+1.8) | 6.17 |
|------------|------------|------|

女子三段跳

| | | |
|------------|-------------|-----|
| 1 内山咲良(2年) | 11m43(+1.4) | 7.1 |
|------------|-------------|-----|

7. 2017年度 東大記録更新者一覧

(種目 氏名 (学年) タイム 日付)

| | | | |
|--------|----------|-------------|------|
| 800m | 高石涼香(3年) | 2'11"23 | 7.23 |
| 10000m | 近藤秀一(3年) | 29'16"49 | 5.25 |
| 三段跳 | 内山咲良(2年) | 11m43(+1.4) | 7.1 |

8. 主務より**8.1 応援OB・OG紹介**

応援OB・OG紹介

7/29,30に知多運動公園陸上競技場・パロマ瑞穂スタジアムで行われました、第68回七大学対校陸上選手権大会兼第28回全国七大学対校女子陸上競技大会に際し、応援に駆けつけてくださったOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和35年卒 笹治峻

昭和38年卒 井上尚男

昭和49年卒 辻本誠

昭和50年卒 小手川強二

昭和51年卒 田上静之

昭和54年卒 中谷敬二

昭和55年卒 辻本敬子

昭和57年卒 室城信之

昭和61年卒 藤村陽

平成3年卒 小野満

平成3年卒 馬場勝也

平成13年卒 岡野浩行

平成13年卒 普光真生

平成15年卒 橋本武

平成20年卒 持永新

平成23年卒 加藤拓哉

平成23年卒 近藤堯之

平成23年卒 園部竜也

平成23年卒 渡邊拓也

平成25年卒 久保木結

平成25年卒 宮野健司

平成27年卒 今須宏美

平成27年卒 原知明

平成 27 年卒 山田銀河
 平成 28 年卒 渥美祐次郎
 平成 28 年卒 小南直翔
 平成 28 年卒 佐藤駿
 平成 28 年卒 藤井将大
 平成 29 年卒 阿部龍太郎
 平成 29 年卒 荒田彰吾
 平成 29 年卒 市橋由梨佳
 平成 29 年卒 稲葉啓人
 平成 29 年卒 岩渕康太
 平成 29 年卒 織原健人
 平成 29 年卒 柏原翔一
 平成 29 年卒 軽部智
 平成 29 年卒 神田公平
 平成 29 年卒 坂出竜弥
 平成 29 年卒 櫻井悠也
 平成 29 年卒 須江絢子
 平成 29 年卒 戸田賢希
 平成 29 年卒 西川拓
 平成 29 年卒 原耕資
 平成 29 年卒 深澤竜太
 平成 29 年卒 福島洋佑
 平成 29 年卒 福永大輔
 平成 29 年卒 松下周平
 平成 29 年卒 箕島頌
 平成 29 年卒 森本淳基

遠方にも関わらず、たくさんの方々が応援に駆け付けてくださいました。部員一同、心より御礼申し上げます。

8.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

| | |
|----------------|--------------|
| 8.27(日) | 一橋戦@一橋 |
| 9.8(金)～9.10(日) | 全日本 I.C. @福井 |
| 9.30(土) | 京大戦@駒場 |
| 10.14(土) | 箱根駅伝予選会@立川 |

8.3 連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二
 TEL : 03-5370-9370
 Mail : Seiji_Saito@suntory.co.jp
 学生主務：後藤裕瑛
 〒240-0046 神奈川県横浜市保土ヶ谷区仏向西
 22-3-914
 TEL : 070-6573-6935
 Mail : shumu@utf.org
 学生主務補：富原健太
 Mail : utf.shumuh@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.utf.org>

学生主務 後藤裕瑛

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の須藤までお送り下さい。

部便り主任 須藤克誉

(Mail: utfbdyri2017@gmail.com)